



AA 日本ニューズレター

No.220

第 31 回評議会に向けたテーマ： Keep coming back ～AA からのメッセージ～

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

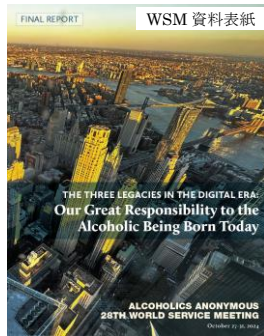
■世界中の AA との分かち合い 第 28 回ワールド・サービス・ミーティング報告：2024/10/27～31 WSM 前期評議員 今井

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

ニューヨークで第 28 回ワールド・サービス・ミーティング（WSM）が開催されました。49 か国から 74 名の代表が集まり、「デジタル時代における3つの遺産 今日生まれつつあるアルコール依存症に対する私たちの大きな責任」をテーマに意見交換が交わされ、アルコール依存症本人へのメッセージ活動、専門機関との連携、家族の役割について話し合われました。過去 2 回はオンライン開催でしたが、対面での開催は 6 年ぶりとなりました。日本からは後期評議員大迫氏と前期評議員の私が参加し、ここに報告します。

- + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

【会議の概要とテーマ】 パンデミック終息後も、オンラインによるミーティングやサービス活動は日常の一部となりました。これからは新たに生まれてくるアルコール依存症やその家族に、AA の回復と希望のメッセージをどのように届けるか、また共同体のコミュニケーションのネットワークをどうつなげていくかがいつ



の時代も重要な課題となっています。各国の評議員は、

- ・アルコール依存症本人や専門家、関係者へのアプローチ
- ・SNS を活用した一般社会への情報発信
- ・オンライングループとサービス機構の関係
- ・アノニミティ（無名性）や普遍的な原理

について成功や失敗の経験を共有しながら、意見交換しました。プレゼンテーションやワークショップを通じて、5 日間にわたり活発に分かち合いました。

【日本からの発表】 大迫氏は『AOSM ゾーン報告』『カントリーレポート』について報告し、私も『精神的原則としての匿名性：AA では、私たちは皆平等です』というプレゼンテーションを行い、さらに



『カントリーハイライト』として日本における過去 2 年間の活動とトピックについて報告しました。緊張の中での発表でしたが、貴重な経験となりました。

【会議の進行】 会議は朝の 8 時半から休憩を挟みながら夕方 6 時半まで分刻みのスケジュールで進みました。夜は寝るまで明日の準備と 1 年目の私にとって息つく暇のない 5 日間でした。2 人の通訳として日本から帯同して頂いたおふたりにはこれまでの WSM 参加経験から多くの献身を頂き心より感謝しています。

【印象的な言葉】 全体会議は、アメリカ・カナダ常任理

事会議長による「AA の未来への責任と決意」に関する挨拶から始まりました。

「謙虚な姿勢で新たな可能性を受け入れ、AA のメッセージを次世代に確実に伝える努力が求められています。このフォーラムの最大の恩恵は、批判や判断を恐れずにアイデアを共有できることです。私たちは伝統をまもりながらも、進歩的な側面を大切にしながら、AA の主要な目的を果たし、今日生まれてくるアルコール依存症が私たちのメッセージを見つめられるよう新たな方法を探求していきます。（抜粋）」

この言葉は、AA の使命と私たちの役割を改めて認識させるものであり、WSM の方向性を明確に示すものと強く感じました。

【感じたこと・今後の課題】 各国の経験や取り組みから、日本との違いや新たな発見が多くあり、非常に充実した毎日でした。特に印象的だったのは、

- ・国と国とのスポンサーシップ（経験豊富な国が、これからメッセージ活動を広げていく国に対して、AA の経験と希望を助言し、支援する関係）
- ・在留外国人へメッセージを運ぶ活動
- ・海外における母国語ミーティングの支援
- ・評議会やコンベンションを通じた国際交流と広報活動
- ・ワークショップや研修会を通じた専門家向け情報提供
- ・AA メンバーの体験談の共有：希望する職場や学校において、AA メンバーが自身の経験を共有する場を設け、アルコール依存症の実態や回復のプロセスについて伝える。

これらの取り組みを通じて、母国語でのミーティングや書籍の重要性を再認識し、専門家や地域社会との協力関係を再構築する必要性や、今後の課題について多くの気づきを得ることができました。個人的には、前期と後期の任期が重なる「たすきがけ」の仕組みは、経験の伝達において非常に重要であると感じています。前期 1 年目で WSM に参加する私にとって、3 月から始まったオリエンテーションから全てが初めての経験です。

後期評議員の大迫氏と経験豊富な通訳の方々の尽力により、あっという間の5日間を過ごすことができました。ニューヨークでの開催時には、特別な機会として、アメリカ・カナダ常任理事会に3日間オブザーバーとして参加することができました。未来に向けてメッセージを伝える情熱は、日本も北米も変わりません。多くの議題や協議事項を精力的にこなす常任理事、そしてそれを支える常勤スタッフメンバーが、それぞれの役割を全うして働く姿は壮観でした。また、ニューヨークの中心部から地下鉄で30分ほどの所にあるゼネラルサービスオフィス (GSO) を訪問しました。職員の皆さんからは「ようこそ、皆さんのオフィスへ」と歓迎され、日本の50周年記念集会のポストカードとピンバッジをお渡しすることができました。



GSO 入り口

事務所の一角には小さな博物館のようなアーカイブ室もあり、そこには最初の秘書であるルース・ホックさんがビッグブックの初版の草稿に使ったタイプライターや、AAの初期の通信レターなど、貴重な資料に触れることができました。また、WSMの翌日 ニューヨーク郊外のベッドフォード・ヒルズにある、ステッピング・ストーンズ (1941年からビルとロイスが亡くなるまで暮らした家) を見学しました。ここでビルが12&12をはじめ多くのAA書籍を執筆しました。ロイスが来客者のために作った多くの歴史的な写真、大量のコーヒーカップや大きなやかんなどが展示され、多くの仲間たちがビルやロイスに会いに訪れています。私たちのルーツに直に触れることができ多くの先人たちに感謝の感情が沸き上がる印象深く心に刻まれる訪問となりました。



ステッピング ストーンズ

【最後に】 WSMの開催には、アメリカ/カナダのGSOが第1回から第28回まで、人的・資金的に大きな役割を果たしてきました。しかし、2日目のプレゼンテーションで、北米常任理事会が財政的困難に直面しており、従来のようなWSMへの支援が難しい状況であることが報告され、伝統7に基づき、すべてのメンバーが平等な責任を負い、自立の喜びを感じてほしいと各国WSM評議員に呼びかけました。日本のメンバーからの国際協力献金は、AA発展途上の国々のための国際出版基金やWSM基金、そして今年10月15日～18日に予定されているAOSM (アジアオ・セアニア・サービスミーティング) の活動費として活用されます。ご協力誠にありがとうございます。

次の第29回WSMは2026年にポルトガルで開催予定です。全体テーマは「36の原則に導かれて (Guided by all 36 Principles)」です。プレゼンテーション・ディスカッ

ションのテーマも決まっています。4月以降、全国でWSM報告会を予定しており、次のテーマについてもぜひ皆さんと経験と希望を分かち合い、そして日本の経験を世界のAAに届けさせてください。

■第2回AA全国矯正保護施設フォーラムの報告

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - +

AA 甲子園グループ おぜっち (フォーラムWGメンバー)

関西地域委員会では一昨年沖縄で開催された常任理事会主催第1回AA全国矯正保護施設フォーラムの際も関西地域としての立候補を検討しました。そのときは立候補に反対する声が多く、見送りとなりました。しかし、第2回目のフォーラムについても立候補の提案が再度当時の後期評議員からあり、採決をとった結果、今回は正式に立候補することが決まりました。第29回評議会では立候補しましたが、その後他地域からの立候補がなかったため、関西地域が開催地域となることがこの評議会後、数か月ほどで正式に決まりました。

ワーキンググループ(WG)は5月に立ち上がりました。KCO (関西セントラルオフィス) 付きの矯正施設委員会と関西地域委員会から選抜された約10名のメンバーと矯正施設担当の佐々木理事、広報担当の石川理事がWGメンバーとして開催に向けて活動を始めました。月1回の頻度でWGを開催し準備を進めました。

前回同様、関西地域の矯正更生関係者が参加しやすいようにと、平日で会場はオンラインで配信でき、関係者が参加しやすい立地条件を探し、2024年11月22日(金)に大阪市港区民センターでの開催が決まりました。お話しいただく関係者は、近畿地方更生保護委員会委員長 鈴木庄市氏にご挨拶、基調講演として3名(神戸保護観察所 尼崎駐在官事務所 統括保護観察官 左近司彩子氏、加古川刑務所 分類教育部長 小山佐知子氏、元A類常任理事 大阪大学名誉教授 藤岡淳子氏)、医療関係者のお話として元A類常任理事 琉球病院副院長 真栄里仁先生にお願いすることになりました。関係者の方々にお話しいただく承諾をいただいたあとは、フライヤーの印刷と関係者への広報を集中的に行っていました。同時にオンラインの配信を行うテックチームを編成し、当日まで何回も練習しました。当日は際立ったトラブルもなくフォーラムの開催をとり行うことができました。オンラインでは関係者29名と、AAメンバー85名の参加がありました。現地会場では関係者15名、AAメンバー49名が参加しました。参加いただいた関係者、AAメンバーの皆様からとてもよい内容のフォーラムだったと感想をいただきました。本フォーラムの開催が関西地域の矯正施設、更生保護施設への今後のAAメッセージの拡大と継続への大きな布石となれば幸いです。

■AA 全国矯正保護施設委員の集い

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

西日本圏B類常任理事 矯正保護施設担当 佐々木

2024 年 11 月 22 日(金)の第 2 回 AA 全国矯正保護施設フォーラム終了後に AA 全国矯正保護施設委員の集いを開催しました。開催の目的として 2 点あり 1 点目は各地域の情報共有、情報交換を行うとともに相互の協力関係と連携に向けた取組みを図り地域ごとの問題点や課題の克服に役立てる。2 点目は 2025 年 6 月 **拘禁刑(※)**が施行される事になり **AA として「私たちにできること」が増えてくる事が予測される**。理事となり事業計画の取り組みとしていましたが 3 年目でようやく実現が出来たのも全国の仲間、そして全国矯正保護施設フォーラム実行委員会メンバーの協力のお陰でハイブリッド開催ができました。皆様のご協力に感謝しています。開催当日は全国 7 地域から現地 18 名、Zoom で 15 名の計 33 名の参加。

各地域からの現状報告を纏めると全国には、刑務所、少年刑務所、拘置所、刑務支所を合計して 81 の刑事施設があり AA として 43 箇所、全国に 103 施設ある更生保護施設のうち、AA として 14 箇所にメンバーが訪問してメッセージを運んで矯正・保護と AA の交流が行われている。

また各地域の課題等の洗い出しを纏めた結果、以下の 4 件が明らかになった。

①全体的にメッセージ不足。新しく参加してくれるメンバーも少なく固定メンバーの対応が続いてマンパワーが足りない状況の中でどうやっていくのかが突きつけられた課題。

②地域のゼネラルサービスに矯正保護施設委員会がない。

③東京管区は関東甲信越及び静岡刑務所含めての管轄。管区の窓口を担当しているが静岡の情報が入ってこないため滞る事が多々ある。

④地域分割した事により連携がとれていない。情報交換や共有が弱くなっているのが問題。

2 時間程の短い時間の開催ではあったが意義のある集いとなり今後も継続して開催し矯正保護施設活動の活性化に繋がりたいと考えております。

(※：依存症回復など受刑者の特性にあった処遇をして受刑者の立ち直りにつながることが期待されている)

■全国広報の集いを終えて 広報・病設担当理事 石川

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

地域ごとの問題解決や課題の克服に役立てる目的で、全国 8 地域の広報担当メンバーとの意見交換、情報交換・情報共有として 2024 年 12 月 21 日にオンラインにて「全国広報の集い(オンライン)」が開催されました。活動は地域ごとによって違いますが、大学への広報活動(授業参加)や保健所へのメッセージなど、毎年開催されるイベントに継続的に参加し、AA の事を知らせると共に新しいメッセージの開拓などされていることの報告がありました。またオンラインを使って地域の枠を超えたメッセージも話題の一つになりました。マスコミに協力してもらうことや専門家の方々の協力で AA を知らない方々に知らせていくなどの報告もありました。またサービスをする仲間が少ないとの意見も

ありましたが、グループ Line などを使い、情報交換をし、仲間を増やしていく地域もありました。

AA 日本は 50 年の節目を迎えることになりましたが、ここ数十年はメンバー数も横ばいになっています。アルコール問題からの回復方法は多様なやり方があると思いますが、AA は 36 の原理で、回復、成長をしているものだと思います。このことを今もなお苦しんでいるアルコール(問題飲酒者)に伝え、回復のお手伝いができたらと思います。50 年の歴史を振り返れば、先行く仲間のご尽力の中で、私たちは今の飲まない生き方を与えてもらいました。だからこそ次の仲間に手を差し伸べるようにしていきたいと強く思います。全国の多くの仲間とその情報を共有し実行していきたいと思います。今後もご協力をお願いいたします。

■第 30 回評議会を終えて

※新たに分科会議長の役割を担う前期評議員より

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

◆人の繋がりの大切さを感じた 3 日間でした

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

第 1 分科会議長 関西地域・前期評議員 服部

この度は第 30 回評議会に参加させていただきありがとうございました。評議員選出選挙にて投票いただきました代議員及び関西地域委員会の皆様、評議会開催にご尽力いただきました評議会事務局の皆様に感謝いたします。評議員という役割を通して日本の AA 全体について皆で考え議論するということは私にとって非常に貴重な経験となりました。全国各地からそれぞれ考え方の異なる仲間達が一堂に会し、一生懸命議題に向き合うことでその場は熱気に包まれ、大きな力が発生しているのを感じました。本会議中、また会議後にも、はじめてお会いした評議員の方々と議題について、また AA プログラムについて深い交流をすることができ、嬉しい経験となりました。特に自分の席の周りの評議員とのやり取りはとても印象に残っていて、静かな穏やかさの中に、今苦しんでいるアルコール依存症者に対する深い洞察や思いを感じることができ、こういう方々がいるならば AA も大丈夫という安堵に包まれ、AA プログラムの根幹はやはり『人』なのだと実感いたしました。とても刺激を受けた 3 日間でした。近年、関西では AA メンバーの減少を肌で感じています。おそらく他地域でも同じような傾向にあると思います。本会議でも議論となりましたが、全国的なイベントを開催することで AA やサービスに興味を持ってもらうということは良いことかもしれませんが、関東とそれ以外の地域の規模の違いにより、全国持ち回りのイベントを今まで通りに継続することの難しさを感じています。また、全国的なイベントも複数あり、各地域の負担も大きくなっています。全体の活動量を減らし、各地域の負担を少しでも減らすことで、AA メンバーひとりひとりが関わりやすいサービスとなっていくことを願っています。また、予算についても今年度は支出増となりました。沢山活動したいのは理解できますが、献金は簡単には増えません。我々現役世代だけではなく、これから繋がっ

てくる仲間達、まだ生まれていない将来の仲間達に AA を繋いでいくには、限られた予算の中で様々なことに手を広げすぎず適正な規模の範囲内で活動していく必要があると思います。この度、仲間の方々のご配慮により、第 1 分科会議長に選出いただきました。AA の現状、将来の予測を踏まえた上で、日本の AA 全体が進むべき方向性を皆で考えていきたいと思っています。

◆与えられた喜びでした。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

第 2 分科会議長 東関越地域・前期評議員 中村

僕の今のソブラエティーが始まったのは、2010 年 5 月からとなります。何度もスリップをした経験から、本気でプログラムをやろうという思いがあったのを覚えています。今回、AA 日本 50 周年を迎える評議会に評議員として参加して思ったのは「AA プログラム・仲間の力」だのと改めて実感させられました。僕にとって回復とサービスは密接な関係だと常に思っています。スポンサーから、まず「仲間作りをしてください」と提案があり代議員を進められました。正直ミーティングも回っているし「仲間もいるし」と思って反発していましたが、実際やってみたら自分の欠点、仲間のプログラムの取り組み方等あらゆる発見がありました。そこで出会った仲間達からの、「刺激、気づき、仲間意識」が原動力となっていきました。後に自分の地区でのラウンドアップ開催、40 周年の実行委員、地域ラウンドアップ委員を経験させて頂きました。その経験を活かして社会生活を送っている中で、一緒にやっていた仲間が「評議員やってみませんか？」と何度なく声をかけてくれました。僕は「フォークダンス&盆踊り、グルーヴのサービス」で充実しているので良い、と思っていましたが、昨年「貰ったものは返す」という思いから評議員に立候補させて頂きました。実際に本年度から始まりましたが、資料の多さ、勉強会での準備、各地域の情報など知らなかった事が沢山ありました。不安を感じながら評議会に参加させて頂きましたが、実際に各地域(常任理事、評議員)の仲間、準備お手伝いをしてくださった仲間と共に参加出来た事が喜びです。今回、第 2 分科会の副議長に選任して頂き、分科会・全体会議・報告など緊張するかと思ったのですが、仲間の力のお陰により落ち着いて分かち合う事が出来たかと思います。今後も、仲間と共に「Keep coming back ~AA からのメッセージ~」を届けていきたいと思っています。貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

◆人の繋がりの大切さを感じた 3 日間でした

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

第 3 分科会議長 中部北陸地域・前期評議員 長尾

先ゆく仲間から、ミーティング後のコップ洗いや隣の仲間にちょっとした挨拶をすることだけでも立派なサ

ービス活動なんですよと聞いた時、自分にもなにか出来ることがあるかもしれないと思いました。地区、地域、オフィスのサービスを順次経験させてもらい、地区委員とオフィス委員長を同時に引き受け、おかしさに気づきながらも、慢心していた時期がありました。どのような形であれ、私が AA に助けられたのは、ミーティング、ステップ、サービス、スポンサーシップ、フェローシップであったと思います。AA35 周年記念集会の実行委員会に参加させてもらいながら、代議員、地区委員長、地区委員、地域委員長をさせてもらい、その流れから評議員代理に立候補しましたが、家庭の事情により降りることになりました。評議員は 6、7 年のソブラエティーでサービス経験も油の乗った頃が丁度よいと思っていたので、もう評議員に立候補する出番はないと考えていた私でしたが、2022 年 11 月の地域集会にて当時輝いていた地元の評議員より、来年 6 月の地域集会で評議員代理に立候補しないかと言われ、ハイパーパワーは何度もこんな機会を与えてくれるんだと思い、本当に有難く思いました。2024 年 1 月の評議会勉強会、良心集会、フルオンラインの評議会に代理として出席させてもらい、全てがオンラインでしたので、評議会も 3 日間オンラインで良いなと思っていました。しかし、今年前期評議員として 2/15~16 の幕張での現地開催を体験して、私が思っていた以上に温かい空気に包まれました。それは家を出た時から会場に到着するまで仲間に見守られていたことから始まり、会場に到着してから家に帰るまでは、世界の AA の一体性に包まれているという新感覚を体感できたからです。また、運良く議長に選任して頂けたことに本当に感謝しています。力不足ではありますが、できる限り尽力して参ります。

■JSO 所長就任のご挨拶 JSO 曾根

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

本年 1 月 1 日より AA・JSO 所長職を拝命致しました。長きにわたりご尽力頂いた新井前所長の退任後、半年近く所長不在となりメンバーのみなさまにはご不便をおかけしましたこととお詫び致します。JSO はみなさんのオフィスです。質問やご意見等ありましたら是非お知らせください。頼れるベテラン職員と共に情報提供に努めます。またみなさんにはいつでも気軽にオフィスに立ち寄って頂きたいと願っております。私自身、みなさんの声に耳を傾けながらできるかぎりの行動をし、今日一日謙虚に使命を全うする所存です。どうぞよろしくお願い致します。なお、同じくして NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス事務局長に任命されましたことをご報告致します。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)9:00～17:00 (土・日・祝) 休